

No.225
 2026.1.20
 (令和8年)

響き

令和7年11月30日現在 前月比
 世帯数………2,849戸 (-7)
 男 性………3,588人 (-4)
 女 性………3,878人 (+1)
 合 計………7,466人 (-3)

発行／庄原コミュニティセンター
 出雲市斐川町庄原3835 (電話)72-4600 (FAX)72-4602

つながる庄原 笑顔の未来
 活かそう 人を 歴史を 資源を

新年のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。皆様にはお健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、旧年中は、当センターの事業推進に格別のご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。

さて、いま日本の社会構造の変化が、人口減少・高齢化を軸とし、産業、家族形態、価値観、あるいは働き方など多方面に広がってきており、私たちの住んでいる庄原にもその波が押し寄せてきています。この変化がコミュニティの在り方やコミセンの活動にも少なからず影響してきています。

そのようなとき、住みたい庄原、住んでよかった庄原、住み続けたい庄原であるためには、地域のコミュニティづくりが一層大切になると考えます。そのための最初のステップとして、一人でも多くの人が、まずは、コミセンの活動や事業に参加して頂くこと、次のステップとして参画して頂くことだと思います。コミセンを中心として庄原の活性化が図れたらと思います。

本年も、活があり利用しやすく親しみやすい庄原コミュニティセンターとなるよう職員一同努力いたします。今年も変わらぬご支援とご協力のほどよろしくお願いいたします。

皆様のご健康とご多幸を祈念し新年のごあいさつといたします。

庄原コミュニティセンター センター長 原 悟司
 チーフマネジャー 池淵 陵子
 マネジャー 小松原由子・糸川 陽子・錦織 陽司



お礼

しめ縄のご寄贈

今年も、宇賀田 耕さんが、立派なしめ縄を作ってください、庄原コミセンとおいでませ館の玄関に飾らせていただきました。お陰様で気持ちよく新年を迎えることができました。ありがとうございました。



庄原コミセン年末大掃除

12月8日(月)、今年も庄原コミセンの教室・サークルの皆さんにコミセン内の大掃除を行っていただきました。たくさんの皆さんに参加いただき、普段なかなか手入れできないところも一生懸命きれいにしてくださいました。おかげさまできれいなコミセンで新年を迎えることができました。大掃除に参加して下さった皆さん、ありがとうございました。



12/13
(土)

子どもクッキング教室 ミニクリスマスケーキと防災食

荘原地区青少年育成協議会
会場:JAしまね「ふぁみーゆ」

荘原子ども教室



荘原小学校4年生以上17名の参加で、恒例のクッキング教室を行いました。
本日のメインはミニクリスマスケーキ。

講師の須田美和さんに細かな点まで見本を示してもらいながら、子どもたち一人ひとりが挑戦しました。先生の作るスポンジケーキや、鮮やかな手さばきであっという間に完成するいろいろなケーキの出来栄に感嘆の声が漏れます。クリスマスカラーの様々なクリームやイチゴの飾りで、かわいらしい個性的なケーキがたくさんできました。

防災食は、アルファ化米のキノコご飯です。お湯と水の二種類の作り方を学びました。初めて食べたという子どもも多く、「想像よりおいしい」「水だけでできるの?」「水だけで作ってもちゃんと食べられる!」と好評でした。



さいごの
仕上げ!!



おいしくできたよ!!



12/12
(金)

荘原なかよしおはなし会

なかよしおはなし会にサンタクロースがやってきた

荘原地区青少年育成協議会



サンタさん
ありがとう!



12月の「なかよしおはなし会」はクリスマス会。クリスマスにちなんだ絵本や大型絵本を読んでもらったり、パネルシアターを見たり、また、一緒にクリスマスソングを歌ったりして楽しく過ごしました。

クリスマス会の終盤にはサンタさんも登場! 歓声と共にサンタさんを迎え、1人ひとり、プレゼントを受け取りました。みんな笑顔の楽しいクリスマス会となりました。

なかよしおはなし会

開催日時: 毎月第2金曜日 15時45分から ※令和8年1月は16日

開催場所: 荘原コミセン おいでませ館

☆乳幼児から小学3年生くらいまでが対象で、どなたでも参加できます!

※ 参加申し込みは不要です

※ 開催日時および開催場所は変更する場合があります

お問い合わせ 荘原コミセン 電話72-4600まで



11/28
(金)

大豆の刈り取り 自主企画事業



「こども倶楽部」は、毎年、自分たちで育てた大豆で子どもたちと味噌を作ります。

6月にまいた種が芽吹き、花を咲かせ、実を結び、収穫の日を迎えることが出来ました! 今年は何と20日間も雨が降らなかったため、部員の皆さんの献身的な水やりによって、どうにかこの日を迎えることが出来ました。皆さんの姿を見ていると、目の前にある食材の有難さをしみじみ実感します。

今号が発行される頃には、その大豆で荘原保育園と東部保育園の皆さんと味噌作りをします。美味しいお味噌が出来ますように。

こども倶楽部



おいしいみそが
できますように!

12/24
(水)

ミニ門松作り 自主企画事業

日本の伝統文化を大切にしたい...



今年も江角俊明さん(斐川町原鹿)を講師にお迎えして「ミニ門松作り」を実施しました。

この「ミニ門松作り」は年を追うごとに参加者が増え、リピーターも何人かいらっしゃいました。

参加者は、砂を入れた孟宗竹の器に真竹、松、梅、南天、稲穂などを飾り付け、小さくても素敵な「ミニ門松」が完成しました。

彩り鮮やかな「ミニ門松」で良い新年が迎えられたことと思います。



ふれあい交流部

11/8
(土)

荘原地区防災訓練

荘原地区自治協会・荘原地区災害対策委員会



今年度の防災訓練は、「上庄原地区」5自治会を対象に実施いたしました。

当日は、「大雨により警戒レベル4、避難指示が発令される」という想定で訓練を行いました。各自治会代表の方、災対役員、荘原地区防災担当市職員に参加いただきました。

訓練では、まず災害対策本部を立ち上げ、災対用LINEやメール、電話等で対象自治会長に災害状況の報告を求めました。各自治会長からの報告をもとに災対本部から避難指示を発令、自治会内の全家庭への避難指示完了後、自治会代表の皆さんに荘原コミュニティセンターへ避難していただきました。

避難してこられた皆さんに、パーテーション・段ボールの簡易ベッド・簡易トイレの組立を実際に体験していただき、その後、国土交通省 中国地方整備局 出雲河川事務所 防災情報課長 藤丸真治さんに「避難行動計画について(マイタイムライン)」と題して出前講座をしていただきました。各自がああでもない、こうでもない、と真剣に考えながら、避難のタイムラインを作成しました。災害になる前から事前に情報を収集し、状況を自ら判断し、自分や大切な人の命を守るためにどのような行動が最善かを考える大切さを学ぶ、実りある訓練となりました。



12/24
(水)

12/25
(木)

荘原地区青少年育成協議会
荘原地区子どもの安全を守る会

歳末パトロール ～青色防犯パトロール隊～

小学生の下校に合わせ、24日は14時から、25日は11時30分から、荘原地内の各所を巡回していただきました。見守り隊、青パト隊の皆様には、日頃から児童の下校時の安全確保や地域の防犯に尽力いただいています。改めて御礼申し上げます。



長年の見守りありがとうございます。

24日は、パトロール出発前に表彰状の伝達が行われました。昨年に続いて、荘原地区より「出雲市犯罪のない安全安心なまちづくり表彰」に3名の皆様が選ばれました。須田晃さん、轟優子さん、勝部露彦さんの3名は、パトロール隊発足初期から15年以上の長きにわたり、青色防犯パトロール隊員として小学生の下校の安全を見守り続けていらっしゃいます。本当にありがとうございます。



青パト隊・見守り隊 隊員募集中!!

緑のジャンパーを着た方や青色の防犯ランプをつけた車を街中で見かけられることがあると思います。地域の安全は地域のみんなで作って、いこうという有志の方のご協力によって、見守り活動は維持されています。青パト隊、見守り隊の皆さんの活動は、まちの安全安心確保と犯罪の抑止につながっています。協力していただける方を随時募集しています。

詳しくは、荘原コメン(電話72-4600)までお尋ねください。

11/29
(土)

スケート教室

莊原地区青少年育成協議会
莊原小学校 PTA 保健体育部

健康

自主企画事業

スポーツ部

今年のスケート教室は、県スケート連盟指導員さん8名体制で技術レベル別に指導していただきました。

初めて滑るお子さんが半数以上。最初は、リンクの中央までハイハイしながら入っていきます。頼る手摺がないリンクの中央で、立ったり転

んだりしながら慣れていきます。30分経たないうちに、多くの子どもたちがリンク内を周遊していました。いきなりリンクの中央に?と思える指導ですが、あつという間に上達。頼るものがないと自立し、がんばる子どもたち。さすが専門の指導員さんです。

スケート教室は、莊原小学校PTAさんとの共催事業です。感染症流行期で残念ながら欠席した子どももいましたが、約50名の親子がリンクいっぱい楽しそうに滑っていました。参加した子どもたちに「今日上手になった人!」と尋ねると、ほぼ全員の手があがりました。



12/10
(水)

健康講座 講師：出雲徳洲会病院 内視鏡センター長 結城 美佳 先生 胃腸をうまく“使いこなす”コツを教えます



昨年も大好評だった結城先生の健康講座。今年も約60名の方を集めての講演会となりました。

結城先生は、身近で具体的な事例を挙げながらお話しされます。正月料理は消化されにくい?ゲップやおならから分かる体調、うちが気になったらスマホで撮影!など、誰にも分かりやすい内容で、難しい話もすんわりと入ってきます。

説得力のあるお話に、参加の皆さんも頷きながら聞いておられました。また、ユーモアたっぷりで、馴染みのある出雲弁の語りは、聞いている私たちが笑顔になり、思わず声を出して笑ってしまいます。

事後のアンケートにも「来年も聞きたい」「笑顔が良い」「すぐに受診したい」など聴衆の心に響いたことが分かる言葉がたくさんありました。

会場後ろでは、莊原地区健康づくりの会、地区健康推進員さんと保健師さんで計測する「血管年齢測定」や、野菜の量が足りているかを計測する「ベジチェック」が行われました。また、食のボランティア「斐川ひまわりの会」の皆さんが準備された過塩味噌汁の試飲コーナーもあり、大勢の皆さんが関心をもって立ち止まっていっぱいしました。



11/22
(土)

ここまでわかった旧大社基地 自主企画事業 総務部

出雲市文化財課主査 三原一将さんの「ここまでわかった旧大社基地」と題した報告会がありました。

「戦後80年、斐川地域ももう少し戦争が長引いていたら戦火に晒されることがあったかもしれない。」衝動的な言葉でした。私たち戦後生まれの何も戦争というものを知らないで育ててきて、こんなに戦争体験の話聞くにつれ心が痛むことばかりです。

1945年3月に建設が始まった大社基地、たった3ヶ月あまりで完成をめざす過酷とも想像される滑走路の新設でした。近くの高齢者の方(三絡在住)も毎日歩いて行って草抜きをしていたと話されていました。記述には海軍の兵士約5000人が中心となって進められた。また近隣の児童が滑走路予定地の草抜きに参加するなど住民も加わったと記されています。基地に関連する施設が現存していること、体験者の話が聞けるということ等を踏まえ戦争を二度と起こさないためにも多くの人に知ってもらいたい事実です。

・戦争体験者で「もう一度戦争を体験したい」という人はいない。「戦後何年という言い方がずっと続いて欲しい」と吉永小百合さんの言葉の通り永遠に続いて欲しいと願っています。



11/13
(木)

次世代にいのちをつなぐために 語り継ぐ

災対・専門部研修 総務部長 森脇孝充



「あのつらい思いを 子や孫たち、そして
すべての人々に 二度と経験してほしくない」
だから「次世代にいのちをつなぐために」私たちは「語り継ぎたい」※1

11月13日専門部研修で広島市豪雨災害伝承館と広島平和記念資料館の研修に参加しました。以下に伝承館の副館長である松井憲氏より被災時の様子と被災で得られた貴重な経験に基づく「防災リーダーのための 防災って……」という講演の一部を記します。

＝広島市豪雨災害 土石流の発生、平成26年8月午前2時～3時半頃。死者77人。＝

夜半からの雨音や雷鳴がうるさい中、眠った。朝、起きた。いつもの夏の朝の活動の音が全く聞こえない。いつもと違う静寂。窓を開けた。見えた風景は辺り一面ひざ下まで土砂。状況を理解できない。パニックした。何をしたいかわからない。やがて、ヘリコプターの音が聞こえた。ベランダで手を振り助けを求めた。見えているかわからない。不安。でもそれしか思いつかない。それから時間が経って、消防士が登って来るのが見えた。助けを求めた。しかし、「私達はより上の、ガス止めに行きます。後から助けが来ます」と言われた。でも誰も来ない。不安。ずいぶん時間がたって子供と連絡が取れ、駅の方に歩いて出ることになった。ひざ下までの泥、いつもなら数分が何十分もかかった。でも、助かった。…… その生々しい話を皆聞き入っていました。……被災から一段落した後、私達被災者は前述のように語り継ぐことを決意した。

なぜ防災意識が低いのか <住民の問題>体系化された教育を受けていない。自分が感じる危険度と避難警報レベルが一致しない。⇒正常バイアススイッチがすぐ入る。<行政の問題>職員の在任期間が短い、縦割り組織、自分事にならない。

防災意識を高めるためには 体系的に命を守るためのスキル・テクニックを見つける必要がある。繰り返しの訓練、繰り返しの座談会等々が必要。AED操作も1回では身につかない。毎年繰り返せば覚える。一過性でなく、地域特化でなく考える力がつく教育が必要である。小中学校児童生徒に対し体系立てた教育を実践中である。

伝承館は教育の場としての研修、訓練機能を持つとともに被災時の緊急避難施設としても考慮され、医療機器の緊急配備にも備え、コンセント、簡易非常電源装置で対応できるようになっており被災者の決意の詰まった建物となっている。今では研修に訪れる人が年間3千人を超えるようになっている。

次に訪れた広島平和記念資料館は8月6日の被爆という悲惨な状況にも関わらずそれでも生きるという人としての根源を写真、展示資料で私達に問いかけるものでした。伝承するものは「核兵器」なのか、「核兵器のない世界」なのか。

次世代にいのちをつなぐために
あなたは何を伝承しますか。

※1 広島市豪雨災害伝承館パンフレットより



12/6
(土)

クリスマス会

慌ただししい年の瀬に楽しいひとときを…

喫茶部

フードドライブでは！
ありがとうございました！

女性クラブ
「やまものの会」



年末恒例の「やまものの会クリスマス会」を開催し、90人近い参加がありました。

今回も昨年大好評だった「Saxophone Quartet 結」のみなさんをゲストに迎えて楽しい時間を過ごしました。「真っ赤な太陽」「どんぐりころころ ジャズヴァージョン」と始まり、クリスマスソングへと続けました。「鉄道メドレー」「チェッカーズメドレー」もあり、お馴染みの曲が続き、会場は大いに盛り上がりしました。

美味しいお菓子と飲み物、「結」のみなさんの若さあふれるパワフルな演奏にパワーをいただきました。年の瀬の慌たしさを忘れ、ゆったりとした時間を過ごすことができました。

なお当日はフードドライブも実施し、たくさんの食品や日用品が集まりました。集まった品物は社会福祉協議会を通して必要とするみなさんに届けられました。



11/26
(水)

小春日和の街をゆっくりと歩き魅力を発見！ ～平田ミニ研修～

社会文化部

ミニ研修を企画し、18名の参加がありました。前日の天候のことがあり雨を心配していましたが、段々と晴れ間が出てお出かけ日和となりました。

まず、平田本陣記念館でホールにある一式飾りの展示品の説明を受けました。普段使いの食器に穴をあけずに針金だけで組み立てたおろちは迫力がありました。庭園を眺めながらお抹茶をいただき、心穏やかになったところで木綿街道へ。

木綿街道交流館内にある「ごはん屋 綿の花」で昼食後に木綿街道の歴史や見どころ等の説明を受けました。その中で「くにびき国体」前に行われた道路の拡張などに影響がなかった木綿街道が昔の面影を残していることを知りました。老舗も残りつつ、新しいタイプの店もあり、魅力的な地域だと感じました。

昼食後に短時間でしたが、宇美神社参拝、木綿街道の散策と楽しいひとときを過ごすことができました。



11/7
(金)

ちょっぴり豪華な料理にチャレンジ ～料理教室～

料理部



今年も「料理工房 創」の周藤明美さんを講師に料理教室を開催しました。

今回の料理部のみなさんからのリクエストは、「いつもより少しだけ豪華な料理を作って食べたい」……そんなリクエストに応えるべく周藤先生が考えてくださった料理をいつものようににぎやかに、それでも手はしっかりと動かして、豪華な料理が完成しました。



～Menu～ メニュー

- ・ローストポーク
- ・ハムディップ
- ・サーモンとアボカドのタルタルサラダ
- ・バーコンパイ
- ・ポイル海老コッペリ飯

1班
11/11
(火)

2班
11/20
(木)

3班
11/28
(金)

体を動かし頭も働かせて 元気に過ごしましょう!

ふれあいサロン
おいでませの会



11月は、1班は「金太郎の家」、2班は「グループホーム出東ララ」、3班は「なのはな園」の職員さんに来ていただき、介護予防の体操や脳トレなどを行いました。

「ガンバルーン」という介護予防に使うボールを使っての体操、マス目に書かれた文字の中から海の生き物やくだものを探す「言葉かくれんぼ」や曲名を当てる連想ゲーム、タオルを使って椅子に座ったままできる体操など、各施設とも今後に活かせるものでした。



1班
12/9
(火)

2班
12/18
(木)

3班
12/19
(金)

お正月飾り、クリスマスリースで 年末年始を華やかに彩りました



12月は、例年通りに各班で決められた活動を行いました。

1班と2班は、お正月飾りを3班はクリスマスリースを作りました。

どの班もボランティアのみなさんがあらかじめ準備作業をしておられ、当日はスムーズに作業に取り掛かることができました。

とても素敵なお正月飾りやクリスマスリースができました。



12/2
(火)

地域小サロン

山の実りあふれる素敵な手作りの クリスマスリースが完成しました



幸町サロン

12月の「幸町サロン」は、恒例のクリスマスリース作りをしました。血圧測定、介護予防体操、お茶タイム、と通常のサロン活動を進めた後は、いよいよリース作りの始まりです。机の上には、あふれんばかりの木々や木の実が並びました。

ツルを巻いてあらかじめ作ってあったリースに材料を次々に付けていき、素敵なクリスマスリースが完成しました。完成したクリスマスリースを手を持ち記念写真を撮りました。来年もみんな揃ってサロンができますようにと願いながら……。



12/20
(土)

しょう ばら Showバラの会

冬とは思えないほどのうらかな日差しとなったこの日、挿し木をした鉢の植え替え作業を行いました。順調に根が伸びています。次は2月頃に、接ぎ木講習会を行います。ご興味のある方はぜひ参加してみてくださいね!

併せて、玄関の東にあるつるバラの剪定と誘引を行いました。5月頃に見頃を迎える予定です。その頃には「斐川バラのオープンガーデン」も開催予定ですので、皆さんぜひバラを見に荘原コミセンまでお越しくださいませ。



写真でたどるあの日の荘原 Vol.11

まちづくり部

今年の漢字「米」

令和7年(2025年)の夏は、1898年の統計開始以降で「最も暑い夏」を3年連続で更新しました。その影響を大きく受けて、米の生産量が減り、住民生活に大きな影響を与えました。日本人の主食である米が食べられなくなるのでは…と不安な日々が続きました。

「米」は令和7年の「今年の漢字」第2位に選ばれました。(ちなみに1位は「熊」でした)



▲錦織竹香(にしこおりちっこう)



錦織竹香(にしこおりちっこう)

1854年～1945年(安政元年～昭和20年)
斐川町神庭生まれ 教育者

「本名を久美といい、子どもの時から絵がたいへん上手で、10才から絵の先生について勉強しました。『竹香』というのは、竹の絵が特に上手だったので絵の先生からつけられた名前です。

竹香は、荘原小学校の先生をした後、松江にある女子師範学校の先生になりました。その後、55才で奈良女子高等師範学校の先生になり、修身や裁縫を教えるとともに、生徒たちの寄宿舎での生活の指導もしました。竹香は、厳しい中にもやさしさがあり、生徒たちからたいへん愛されました。

70才で先生をやめると、故郷の斐川町に帰り、本を書いたり、講演を行ったりして地域のためにつくしました。現在も荘原小学校にある二宮尊徳像の「幸福敬徳」の文字は、竹香が書いたものです。竹香の描いた絵は、町内にも数多く残っています。」

(出典) 斐川町教育委員会「わたしたちの斐川町」より転写

荘原コミュニティセンター「まちづくり部」では、引き続き皆様から豊かな荘原の写真などの歴史資料を募集しています。ご自宅に豊かな写真などありましたら、荘原コミュニティセンターまでご持参ください。

令和8年度 荘原コミュニティセンター団体育成費のご案内

～荘原地区の元気な団体を応援しています～

対象：地域づくりや地域の活性化に繋がる事業や活動を行う荘原地区の団体・グループ(営利を目的としない)を募集します。

目的：各団体・グループを育成支援により、地域の活性化につなげる。

助成額：1団体につき2万円程度(5団体)

締め切り：3月13日(金)



環境委員のみなさまへお願い

出雲市環境保全連合会荘原支部

今年度の自治会美化活動が終了した自治会は、報告書の提出をお願いします。お寄せいただいた情報はまとめて次年度の環境委員に報告し、環境美化活動に役立てられます。

※提出のメ切 令和8年2月27日(金)



ご寄付御礼

香典返し 金一封

黒田 仁美様(北本町自治会)

皆様から心寄せいただいたお金は、荘原市内の社会福祉事業に活用させていただきます。また、お寄せいただいたお金の内訳や、お寄せいただいたお金の用途については、荘原コミュニティセンターで公開しております。